

教育実習の成果を高めるための教育課程における学習要素に関する研究 ～本学教育実習生のふりかえりから～

甲本 将希 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 川合 英之

キーワード：教育実習，教育課程，履修領域

1. 緒言

教育実習において、不慣れな実習生が授業を行うことで授業に大幅な遅れが生じることや教育免許を取得するだけの学生と真剣に教員を目指している学生との意識の差が課題として挙げられている。実際に中央教育審議会(2015年12月21日答申)「これからの学校教育を担う教員の資質向上について」の中で、「教職課程の学生が学校や教職についての深い理解や意欲を持たないまま安易に教員免許状を取得し、教員として採用されているとの指摘もある」と記されている。一方で、実際の学校現場で実習生が過ごす経験は、自らが教師としての適性があるのかどうかを判断する貴重なものとなる。

そこで教育実習の成果をより高めるために本学の教育課程について、どの学習内容が実際の教育実習に役立つのかを、教育実習に赴いた学生のふりかえりを参考に明らかにするとともに、実習生が指導・注意された点を把握することでより良い教育実習に向けた学習の方向性を明らかにすることにした。

2. 研究方法

びわこ成蹊スポーツ大学学校スポーツコースの4年次生で教育実習(中学校または高等学校)を経験した学生50人を対象にアンケート調査を行った。調査の観点は、①本学教職課程履修領域と学習内容との関係、②教育活動(生徒指導・学習指導)と履修領域との関係、③教育実習生の反省の実際とした。

3. 結果と考察

①履修領域と学習内容の結果と②教育活動と履修領域の結果から、生徒指導・学習指導に関して、実習成果を高める学習内容を明らかにした。特に、実習における生徒理解力、生徒の発達段階に応じた指導、生徒との距離の取り方

の適切性、目の前の問題行動に対しての対応の4項目において、学校カウンセリングが最も学習として適しており、実習効果を高めるという結果がでた、このことは、一般の教育相談の内容に加えて、思春期の生徒と関わる際の実践についての知識を学習して実習に臨めたからであると考えられる。

また、③実習生の反省の実際からは専門的知識の不足と板書の方法の2項目が挙げられた。専門的知識の不足に関しては、実習の担当授業を早期に把握し、実習期間前に深い教材研究を実施することが重要であると考えられる。また、一般教養や教職教養など教員としての資質・能力に関する知識の学習も怠ってはならない。

板書の方法については、保健授業の板書を1人で行う経験不足が考えられる。空き時間などを活用して学生同士で、授業で使用する掲示物を含めてどのように板書計画を実施するのかを演習することが望ましいと考える。

4. まとめ

②教育活動と履修領域の結果から模擬授業の経験は最も教育実習の効果を高めると考えられる。大学授業における実践機会だけでなく、空き時間を利用して学生相互で模擬授業を考え実践することは、大変重要であると考えられる。さらに、保健授業で効果的な教材開発を行うためにも、教材開発演習において多くの学生や教職経験者等による意見交換を行い、教材開発のアイデアを準備することが重要であると考えられる。

引用・参考文献

白山 雅彦(2017)、教育実習に向けた教職課程における指導の在り方に関する考察、秋田県立大学総合科学研究語報(2017):77-93
高橋健夫、友添秀則、岩田靖(2010)、体育科教育学入門 大修館書店